さやま市民大学同窓会
2022年１月３日号
News No.16

迎春

同窓会の役員、7匹の寅が吠えています。やる気満々！でも、実行には皆様のご協力がかかせません。
本年もご支援、ご協力を宜しくお願い致します。

今年は寅年です。干支の虎は「千里行って千里帰る」と言われています。私達の同窓会も寅年の今年、創立２０周年を迎えます。その間、幾多の苦境を乗り越え、虎の如く千里帰ることが出来ました。寅年生まれの人は、「強い信念を持ち合わせている」、「情熱的でロマンィスト」であり、「チャレンジ精神お旺盛な人」だと言われ、そのような方々が会員の中にいらっしゃると思うと心強い限りです。今年の同窓会活動は、新たに取り入れた、全ての会員参加型の地域活動（市内６地区）を中心にして催しなどを計画しております。寅年生まれの方々に負けぬよう、「老当益壮（ろうとうえきそう）」の精神を持って 事業展開を致したいと思っていますので、昨年に倍してのご支援、ご協力をお願いいたします。

（会長　中嶋亨）

虹は空に架かる

You'll never find a rainbow
if you're looking doun.）
チャールズ・チャップリン

世界中の人々が見えない敵と戦っている時代だからこそ、仲間との輪をさらに広げ、明るく・楽しい日々を過ごしたいですね。

（副会長　覆平芳恵）

小中学生の登校日には毎朝見守りに立つ。「おはようございます」と声をかけると、元気な可愛い声が「こだま」のように返ってくる。行きかう大人も、高校生も、みんな挨拶し合う。「笑顔」と「おはようございます」ただそれだけ。でも、どんなに寒い朝でも私の心を温めてくれる。時に、さぼりたくもなるが、また今年も1年頑張ろう！

（事務局長　黒川昭）

毎週月曜日は台小で学校支援。字の間違いや計算のミス、これで正しい？これはどうすれば？その日のメンバーに尋ねたり、辞書を引いたり‥。暑い夏の日、風の冷たい冬の日、校庭を元気に走り回る子供たちに元気をもらいます。自分が支援されているのでは？と！足取りも軽く感じられる帰り道、皆さんにもお勧めです！学校支援！

（会計　印牧秀子）

<u>すっかり狭山の住民になりました！</u>

昨年も、狭山ふるさと検定（狭山市立博物館主催）３回目に合格できたことをきっかけに、狭山の良さをFacebookに投稿することが増えました。――日常のさりげない寄稿にも、すばやく反応してくれます――

今年の目標＝自己満足？できる「富士山と入間川」の写真投稿

（事務局次長　村田光平）

さやま市民大学で講師をされている、歴史小説家岳真也先生が、秩父路吾野宿で古民家を改修し、『蒼の文学館(ブルー・ミュージアム、将来はサロン付設)』の開設を計画しています。この文学館には、岳先生の蔵書のほか、加賀乙彦、金子光晴、瀬戸内寂聴、遠藤周作、島尾敏雄、永六輔、中村信一郎、三枝和子、秋山駿師らの記念品のほか、「蒼い共和国」「えん」「二十一世紀文学」の同人諸氏(三田誠広、笹倉明、富岡幸一郎、藤沢周、下川裕治氏ら)の生原稿展示を予定しています。今年は具体化に向け、岳先生が会長をつとめる 虎希の会(名誉会長菅直人元総理)が加賀乙彦・文学の会とタイアップ。林真理子、赤川次郎、出久根達郎、川村湊、村上春樹、村上龍など友人知己の支援・協力を得るほか、多方面に協力を要請し文学館建設のための基金募集を実行するということです。新年は、岳真也後援会事務局長を自認する者として、文学館開設が成し遂げられるよう微力を尽くしてまいります。（副会長　六車徳誠）

昨年も新型コロナに振り回され友人や親類とも距離を置く生活が続きました。後半は少し制約が緩和され、久々に孫達に会え、友人・仲間に会え、身内と外食ができ、改めて「人との繋がり」の大切さと楽しさを感じました。今年もオミクロン株出現で少々きな臭い感じはしますが、同窓会の会員相互、関連クラブ、地域活動などで多くの「繋がり」が可能になるよう取り組んで行きたいと思います。（IT 担当　岸田英俊）

祝う集い、着々と準備中

第11回20周年記念事業企画委員会報告
12月22日（水）

今年最後の同窓会の活動は「20周年を祝う集い」の企画委員会でした。20年間を振り返るパワーポイントの内容や、当日の役割分担の原案について話し合いました。お祝いのお赤飯の包装は？受付が終わった後の待ち時間は鵜沢さんのピアノで‥‥、「20年の歩み」を見ている人に分かりやすくするには‥‥等々、皆さんに楽しんでもらうために話し合いにも熱が入ります。本番まで2カ月余り。仲間との久しぶりの再開の機会でもあります。コロナの再拡大が無いよう願いながら、心を込めて準備中です。

申し込み締め切りは１月10日です。もうお済みですか？

20 年の振り返りを PowerPoint に映して検討中

丸か四角か……くす玉を試作

千秋万歳（せんしゅうばんざい）ガキの顔（かお）

令和3年12月1日、無事に八十二回目の誕生日を迎える事が出来た。
芭蕉ではないが、「目出度くもあり、目出度くもない」の心境である。
振り返れば恥も外聞を恐れず、「無理を通しての人生」であったと思える。
「見栄と無理は同じもの」を心に刻んで「正直」に生きて来たつもりでいる。
「正直」な奴は、まるでガキであると思う。
たぶん男って誰もがガキだと思う節が沢山ある。
仲間を見ていると、まさしくガキの顔をしているからだ。
男が一心不乱になると、ガキになる。
ラガーマンが、ちっこいボール一つに文字通り、生命をかけて必死の形相で
駆け回る姿はまさしくガキの美しい形相、爺は感動する。
終戦直後の男の子たちは草野球を楽しみながら、あんな形相をしていた。
ガキの情熱がこの世を作ってきたと信じている。
あの人も、この人も、ガキの顔つきで自ら仕事に没頭してきたのであろう。
爺もガキの情熱で今日まで生きて来た。
これからも爺はガキの顔つきをしながら、暫くの間、生きて行く事になるであろう。

※千秋万歳とは、千年万年の長寿を祝って「いつまでも健康に」と言う意味です。

（同窓会会長　中嶋 とおる）

※　別添で狂言入間川を見る会の「第26回狂言鑑賞会」（3月12日・狭山市市民会館）とさやま市民大学第１回公開講座「活力ある狭山に向けた SDGs の取り組みと住民参加」（１月28日・オンライン）のチラシをお送りします。興味のある方は是非ご覧ください。